



テントでの授業風景

45年前に建設され、修復が必要な校舎

冬は-14℃にもなる極寒の中、屋外で勉強する子どもたち

クラム県を含む旧連邦直轄部族地域(以下、旧FATA)の7つの県は、6年にわたる紛争やテロによる影響を強く受け、水衛生や教育といった、生きていくのに不可欠な公共サービスが圧倒的に不足しています。とくに、子どもの就学率は40.38%と低く、主に3つの理由があるといわれています。

1つ目は、政府による開発が遅れていて、学校やトイレ、手洗い場をはじめとする水衛生施設などの社会インフラが破壊されたままになっていること。2つ目は、下痢などの病気で、学校に行けない子どもたちが多くいることです。旧FATAの7県の学校では、衛生教育が行われていないため、子どもたちは川や池の水を飲み水として使用していて、下痢等の罹患が常態化してい

ます。3つ目は、紛争やテロ等の影響で子どもたちが心の不調を訴えている点です。クラム県教育局によれば、旧FATAの就学年齢の子どものうち、心的ストレスで不登校となっている生徒数は増加傾向にあり、子どもだけでなく、親が心的不調をきたしていて子どもを学校へ行かせられないケースもあるようです。

そこでジェンは、旧FATAの中でも再建や修復の必要性が最も高いKP(ハイバル・パフトウンハー)州クラム県の8校を対象に、学習環境の改善や衛生教育、心のケアや衛生キットの配布などを実施して、子どもが継続的に安心して学校で教育を受けられるように環境整備を行っています。6月末からプロジェクトがはじまり、治安上、特別な配慮が

ハイバル・パフトウンハー州クラム県における子どもたちの教育環境改善支援事業が始まりました

必要な地域で活動する際に取得が必要な入域許可証の申請や、エンジニア、アシスタントエンジニア、会計補佐、教育オフィサーなどの新規スタッフの採用を進めています。



劣悪な状態にあるトイレ

*本事業は、外務省からの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。

百聞は一見に如かず

1994年に最初に旧ユーゴスラビアに赴任した時、持参したのはパソコンではなくワープロだった。日本と現地との連絡は、基本的にはファックス。どうしても相談したいことや話し合えなければならぬことは、高い料金を気にしながら国際電話を使った。

仕事でメールを使い始めたのは1996年になってからだ。その後のITの進化はめざましく、日々オンラインでパキスタンやアフガニスタンの同僚とも気軽にミーティングをしている今となつては、あの頃どうやって仕事をしていたのかと思う。

それほど連絡が取りやすくなった今でも、いや、今だからなのか、コミュニケーションの難しさを痛感する時がある。10年以上も共に働き、気心が知れていると互いに思っている同僚とでさえ、時には知りたい答えが返ってこない。「ここを知りたいのだ」と手を替え品を替え表現に工夫しても、ツボを押さえた答えがもらえないことがある。わからないまま進めることはできないので、何度も問いかける。きつと先方も、「どうしてわからないのだ」と思っていることだろう。自分が駐在していた頃、「東京はわかってくれない」と思ったあの感覚を持っているのではないだろうか。

百聞は一見に如かず。オンラインで画面越しに出会っていても、現地を見ているわけではない。「判ったつもりにならないことが、良い事業の基本」と自らを戒め、今日も画面の向こうにいる同僚に語りかける。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフの
ひとこと

4月に入職しました前田梨乃と申します。このご時世で、出勤頻度は少ないのですが、ジェンのことを早く知りたいと思い、事務所に行くのを実は楽しみにしています。一方、電車通勤が人生で初めてなので、満員電車に出くわす度に、早く慣れぬものかと念じています。(前田)

ジェンの活動へのご支援のお願い

未使用の書き損じ年賀ハガキやハガキはありませんか？

あなたの未使用の(書き損じ)年賀状や官製ハガキ(郵政ハガキ)または、未使用切手をジェンの東京本部にお送りください。ジェンの支援活動のために活用させていただきます。



〒107-0052

東京都港区赤坂7-5-27-305

特定非営利活動法人ジェン「ハガキ・切手係」

JENサポーター(継続寄付)

月々1,000円から始められる定額自動引き落とし型の寄付プログラムです。年4回発行のニュースレターをお届けするほか、活動報告会などさまざまなイベントのご案内をいち早くお知らせいたします。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示される場合がございます。間違って広告をクリックされないようご注意ください。

東京本部事務局の住所について

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いままで使用し続けることといたしました。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305

TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo

@NGO_JEN

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



サバクトビバッタによる 被害軽減のための 緊急支援が完了しました



家畜用飼料を受け取る家畜農家の人たち

パキスタンで最も深刻な害虫被害を受けたシンド州とKP（ハイバル・パフトウンハー）州への緊急支援事業が終了しました。当初、速やかなバッタの駆除などを予定していましたが、事業期間中にバッタの群れがインドに移動したことや、害虫被害が深刻となったことから、畜産農家への緊急支援



現場での害虫駆除訓練の様子

に切り替えて実施しました。具体的には、バッタ被害が大きかったKP州D・カーン県とシンド州タールパーカー県で、畜産農家4,680世帯への緊急支援として、1世帯当たり最大140kg相当の飼料を提供し、害虫に飼料を食い荒らされてやせ細り、体力が低下した家畜の体力回復を目指しました。病気にかかりやすくなった家畜に、寄生虫の駆除処置や予防接種なども行なって生計回復を図りました。また、この2県は、次のシーズンにも引き続き害虫被害の影響を受けやすいため、農民への資材提供や、害虫の早期警戒メカニズムを創設し、将来の害虫被害の軽減にも努めています。



LCGメンバーとジェンのスタッフ

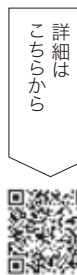
今回の事業は、パキスタンで初めてコミュニティ主導で実施された害虫被害支援事業でした。バッタ防除グループ（LCG）メンバーと地域の人たちは、将来のバッタの襲来に備えて、バッタの制御や管理について知識を得ました。事業終了後も、LCGメンバーから関連機関に、最新のバッタの状況が報告されています。家畜農家を対象に実施した緊急支援では、家畜の健康管理啓発研修を実施し、飼料を提供したことで、生活に困って大切な家畜を手放さなければならぬケースが減少しているようです。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しました。

お知らせ

「JENサポーター（継続寄付）」になりませんか？

いつも温かいご支援を賜り、ありがとうございます。この度、月々1,000円から始められる継続寄付プログラム「生きるちからマンスリーサポーター」の名称を、9月中旬から「JENサポーター」に変更いたします。ホームページ内の改修も9月中に行っていく予定です。支援者のみなさまにはご不便をおかけしますが、なにとぞご理解を賜りますようお願いいたします。



詳細はこちら

ニュースレターのご感想や質問をお寄せください

サポーターのみなさまからいただく声は、活動の励みになります。こちらからぜひお寄せください。お待ちしております。



ご感想や質問はこちら

アフガニスタン

教育スキル向上のための 教師向け研修を実施

女子学習環境改善事業では、女子生徒が質の高い基礎教育を安心・安全な環境で受けられるよう、校舎や外壁の建設作業が順調に進められています。同時に、教師を対象とした基礎教育法と心理カウンセリングの研修が行われています。

これらの研修がなぜ必要かというと、アフガニスタンでは、教師の58%が国が定める必要最低限の資格（高校卒業後2年間の教員養成学校修了に相当）を持っておらず、基礎的な教育法を習得していないからです。そのような教師を対象に、一般的な教授法、授業計画の作成方法、生徒の評価方法、試験の準備方法、授業の効率を上げるための指導方法などを学ぶ研修を行います。

そして心理カウンセリング研修では、教師が子どもたちのケアをできるようにするために、心理的苦痛から解放するツールや方策について学びます。アフガニスタンでは、紛争



グループワークをしている様子

01

アフガニスタンで セキュリティオフィサーを採用しました

アフガニスタン事務所で、セキュリティオフィサーとして、ザキールさんがメンバーに加わりました。ITにも詳しいスタッフで、ジャララバードの事務所を拠点に、精力的に活動してくれています。セキュリティオフィサーは、事業地の治安に関する情報を収集して、万が一、なにか起こる

のを未然に防ぐための安全研修や、応急処置の方法などを現地スタッフに指導します。具体的には、車に乗る前にボンネットに爆薬が仕掛けられていないかどうかを確認するといった行動指針や、爆薬を発見した場合の対処方法、怪我をしたときの応急処置など広範囲にわたっています。



応急処置について指導中のザキールさん

02

各事務所をオンラインで繋いで 「システム思考研修」を実施しました

チエンジ・エージェント代表取締役で「学習する組織」などを普及推進されている小田理一郎様の協力を得て、6月より5回に渡って、システム思考のトレーニングを実施しました。研修は、東京本部、アフガニスタンとパキスタンの現地事務所をオンラインで繋いで行い、新規事業開始に伴い、新たに雇用した

現地のスタッフたちも参加しました。

システム思考は、多くの要素が複雑に影響し合う現実の世界をシステムでとらえる考え方です。支援事業を実施する中で、これまで以上に持続的なインパクトをもたらしたいという願いから、システム全体を理解して、構造的な問題に取り組みめるようになるために、この研修を実施しました。

トレーニングはゲーム形式でのワークから始まり、グループに分かれて、身の回りで起こることを事例にして、学びを深めました。普段はそれぞれの場所で離れて活動するスタッフ同士が意見を交わすことで、互いに学び合い、とても充実した時間になりました。

他者を尊重し、理解し、互いに支え合う

ジェンの組織力づくり